

当社では、年1～2回のペースで「その時」のテーマを選び、『企業セミナー』を開催しています。  
今回で第17回となるセミナーのテーマは「情報セキュリティのこれまでとこれから」です。

株式会社インターリスク総研の頼永 忍 氏を講師にお迎えし、情報漏えいやソーシャルメディアを通じた社内情報の流出等、まさに日本中が今注目している内容を2時間程に濃縮し、大変参考になるお話をして頂きました。



当日ご参加いただいたのは、当社の得意先の皆様、初めてご参加いただける皆様及び保険会社関係の皆様、総勢40名あまり。関連する大きな事件もあり身近な話題だけあって会場はほぼ満員となりました。

今回のセミナーは以下の3部構成となっています。

いずれも身近な例を使って分かりやすい内容で、一同「なるほど」の連続でした。

①個人情報と漏洩対策 ②ソーシャルメディアとスマートフォン ③ビッグデータ時代の情報セキュリティ

非常に参考になりましたので、皆さまへその一部をご紹介します。

### ①個人情報と漏洩対策

そもそも個人情報とはどの範囲まで指すの？ からはじまり、

個人情報保護って何を守るの？ どうすれば守れるの？ という内容や、

情報漏洩してしまったら？ という実際の対処法にまで踏み込んだ内容で、分かりやすさは特筆でした！。

その中でも、どんなに対策をしても最後の最後はミスや不注意によるヒューマンエラーなんだ、という点は誰しも常に心に留めておく必要があると痛感致しました。

### ②ソーシャルメディアとスマートデバイス

気軽に日常の様子をインターネット（web）上で公開し、知人・友人との親交を深められる便利なソーシャルメディア。しかし、一歩間違えば行き過ぎた投稿内容で企業イメージを大きくダウンさせてしまう、そんな事件が一時期たくさん起きていたことは皆様の記憶に新しいのではないのでしょうか。

私自身が未だに昔ながらのガラケー（二つ折り携帯）を使用しており、なかなか実感が少ないのですが、web上に公開され一度世間の注目を集めると非常に拡散（多くの目に曝される）スピードが早いこと、同時にIDなどの断片的なキーワードから連想ゲームで投稿者を容易に特定できてしまう事、一度投稿された情報は削除しても既に他サイトへ転載されており全てを削除するのは不可能に近い事など、非常に怖いなあと感じました。

原則本名で公開していること意識し、不特定多数の人が閲覧できないように公開範囲を絞り込む等の対策が必要との事。

当たり前の事ではありますが、プライベートな交流でも企業に属する社会人であることを再意識致しました。



### ③ビッグデータ時代の情報セキュリティ

ICカードで通勤定期やコンビニでのお買い物にと、現金を使わずに買い物をする機会が増えており、その購入履歴等の個人情報の利用方法が話題となっております。

便利な世の中の為・・・であれば良いのですが、複数のビッグデータを組み合わせ個人を特定させるような行き過ぎた利用は考え物です。

いつも通り電車に乗ってコンビニで買い物をして・・・というだけなら、個人まで特定？と疑問に思いますが、例えば以下のようなケースでは簡単に個人の特定に至る場合もあるとの事です。

週末にいつもと同じICカードで地方の駅まで行き、駅前のコンビニでチョコレートと缶コーヒー、隣の薬局で絆創膏をそのICカードで購入し、翌日会社近くのコンビニで水道料金をそのICカードで支払ったとなると、時間帯を考慮すると同じ行動をした人はかなり限定され、完全に個人が特定される可能性もあります。



それらを使って“悪用”する企業は少ないかと思いますが、現時点では対応する法規制はありません（法の改正中）。その状況の中で個人情報を適正に扱いお客様に誠実に向き合ってビジネスをすることの大切さを改めて再確認させられたセミナーでありました。

次回の第18回藤田組セミナーも旬な話題をテーマに考えておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

#### 【補足】

藤田組では、万が一個人情報の漏えいした際の保険もご用意しております。

ご興味ございましたら、当社の営業社員または03-3276-7551（藤田組）までお気軽にお問合わせ下さい。

<井上 雅人>